

# 加茂市人口ビジョン

平成27年10月

(令和2年3月改訂)

## 加茂市人口ビジョン

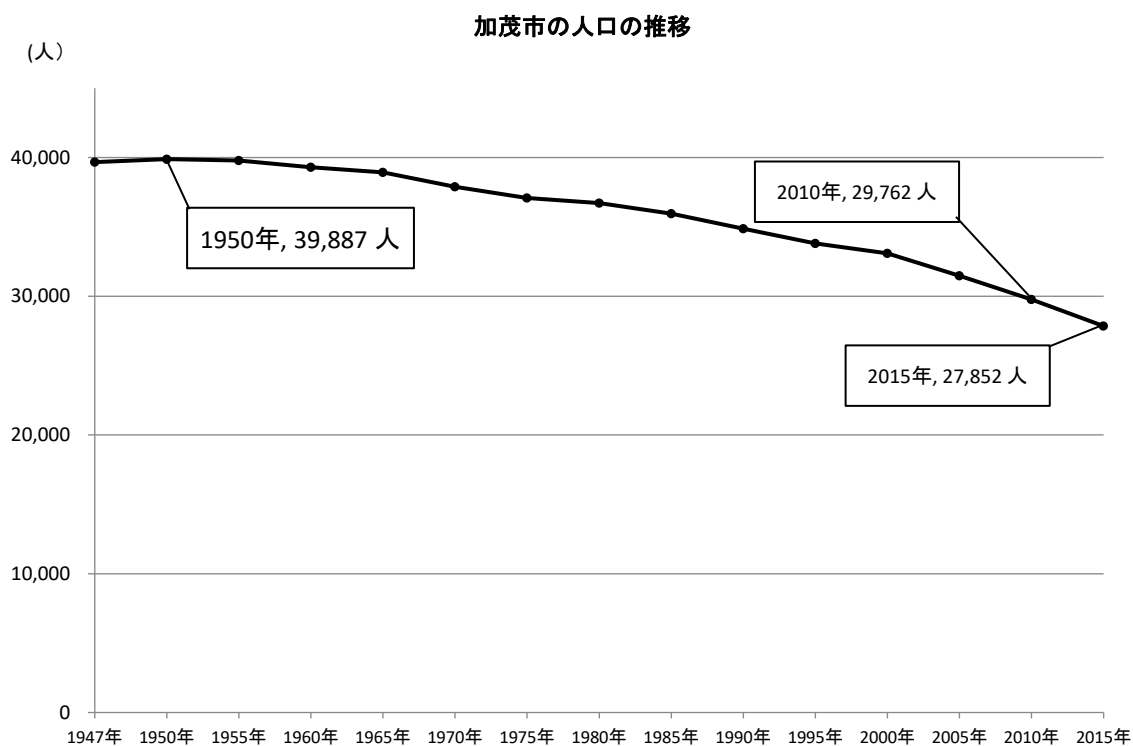
1 人口の現状分析	1
(1)加茂市の人口動向分析	1
(2)将来人口の推計と分析	6
(3)人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察	7
2 人口の将来展望	8
(1)目指すべき将来の方向性	8
(2)人口の将来展望	8

# 1 人口の現状分析

## (1) 加茂市の人口動向分析

**人口は、1950年（昭和25年）の39,887人から減少が続いている。**

1950年（昭和25年）の39,887人をピークに加茂市の人口は減少が続いています。2010年（平成22年）には、3万人を下回り29,762人になりました。



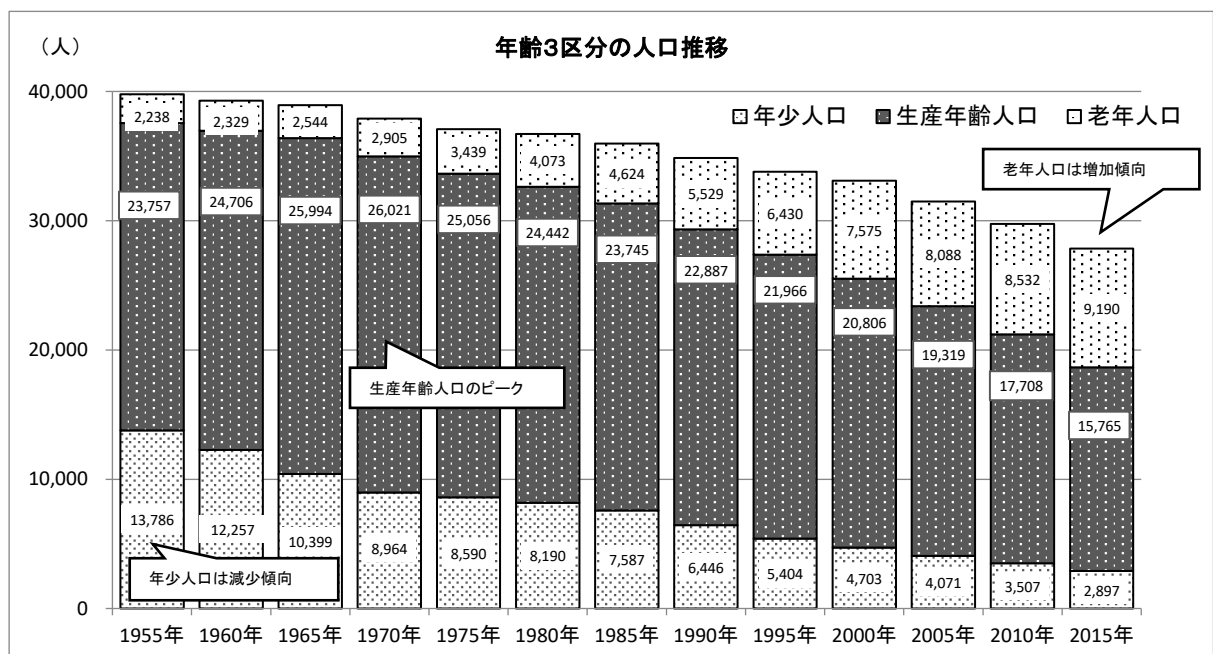
データ：国勢調査（総務省）

## 人口の構造が大きく変化している。

年少人口(0-14歳未満)は減少が続き、1995年(平成7年)には老年人口(65歳以上)を下回り、2015年(平成27年)に2,897人(総人口に占める割合10.4%)になりました。1955年(昭和30年)のピーク時13,786人から約5分の1にまで減少してしまいました。

生産年齢人口(15-64歳)は、1970年(昭和45年)にピークを迎え26,021人になりますが、その後は減少が続いています。2015年(平成27年)には15,765人となり、1970年(昭和45年)のピークから約4割減少したことになります。

老年人口(65歳以上)は、年々増加し続けて2015年(平成27年)には9,190人となり、1955年(昭和30年)と比べて約4倍に増加し、総人口に占める割合も約6倍に増加しています。



データ：国勢調査（総務省）

### 人口構造の変化(1955年と2015年との比較)

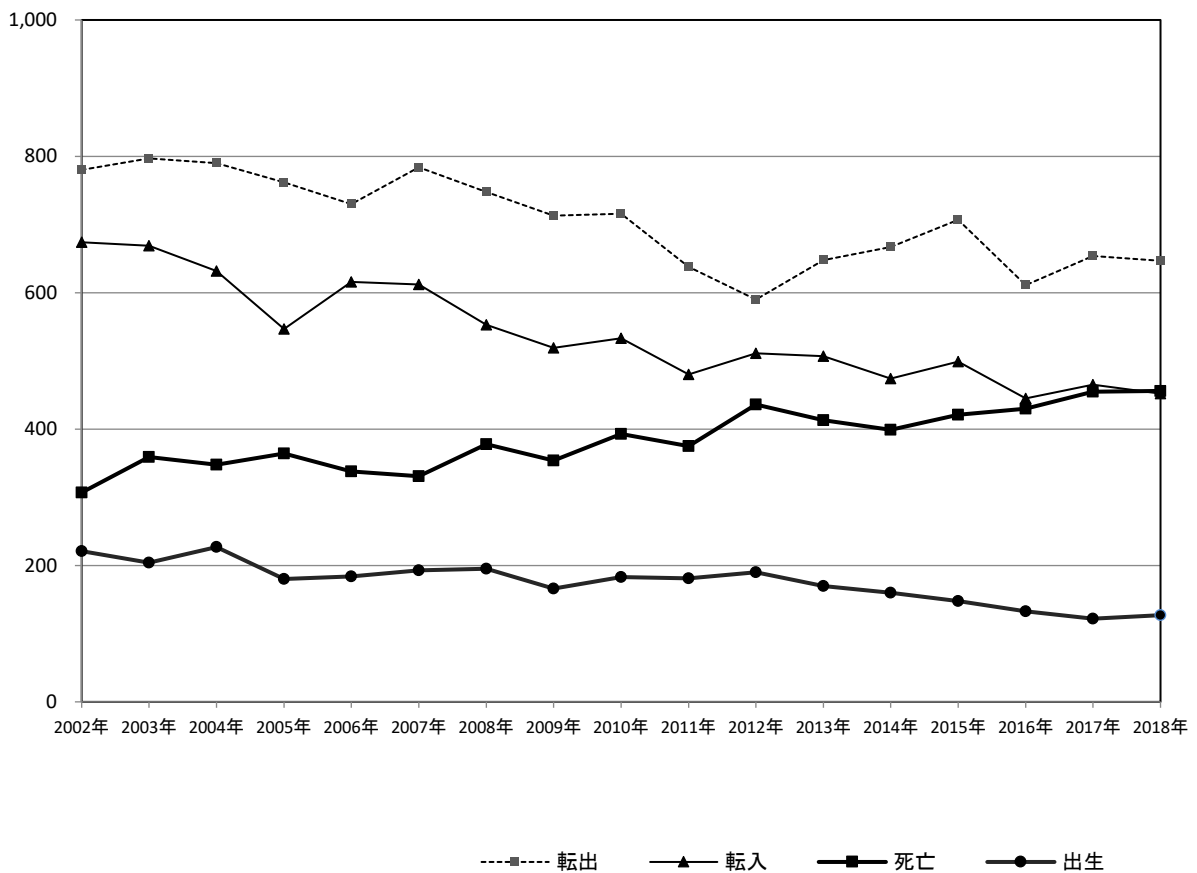
	1955年		2015年		増減	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
総人口(人)	39,781		27,852		-11,929	
年少人口 0~14歳	13,786	34.7%	2,897	10.4%	-10,889	-24.3%
生産人口 15~64歳	23,757	59.7%	15,765	56.6%	-7,992	-3.1%
老年人口 65歳以上	2,238	5.6%	9,190	33.0%	6,952	27.4%

データ：国勢調査（総務省）

**加茂市の人口減少は、自然的要因と社会的要因の両方に起因する。**

加茂市の人口は、毎年 420 人程度(2008 年～2017 年の平均)減少し、その内訳は、自然要因(出生・死亡)で約 250 人、社会要因(転入・転出)で約 170 人減少しています。

(人) **加茂市の出生・死亡・転入・転出者数**



データ：新潟県人口移動調査（新潟県）

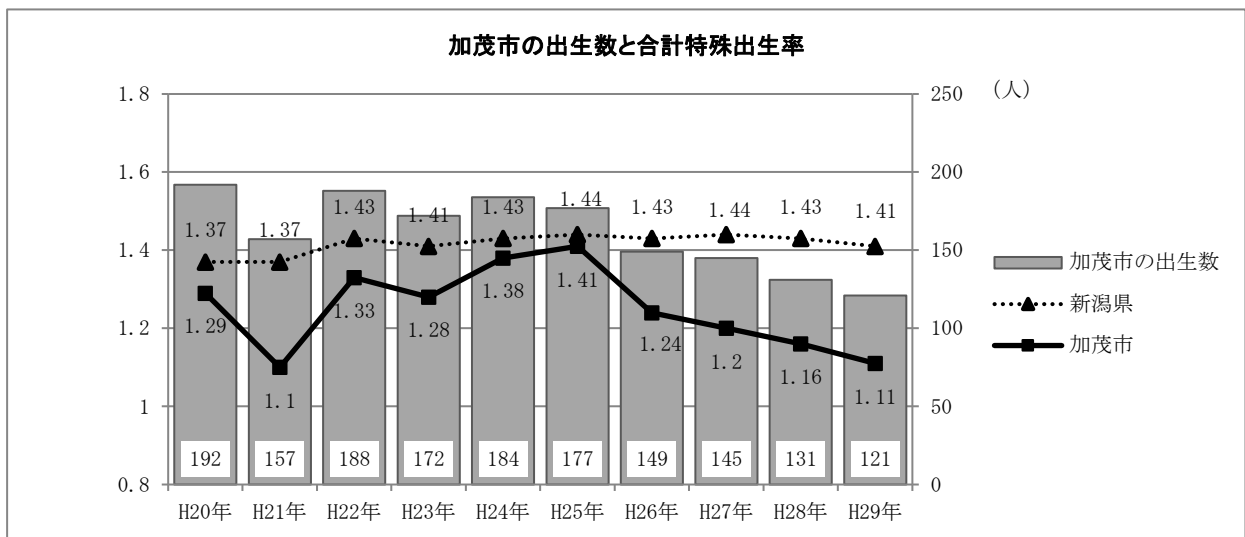
※当該年の 10 月から翌年 9 月までの集計

**自然的要因では、出生数は減少傾向、死亡者数は増加傾向にある。**

2008年(平成20年)から2017年(平成29年)までの10年間で、出生数は1,616人、死亡者数は4,021人でした。この10年で自然的要因により2,405人減少しています。

出生数は2005年(平成17年)に200人を下回って180人となり、その後、年によって増減しながらほぼ横ばいで推移していましたが、2013年(平成25年)から減少が続いています。死亡者数は2010年(平成22年)から400人を超え、増加傾向にあります。

2017年(平成29年)の合計特殊出生率(一人の女性が生涯に産む子どもの推定人数で、以下「出生率」という。)は、加茂市は1.11、新潟県は1.41、全国では1.43となっています。



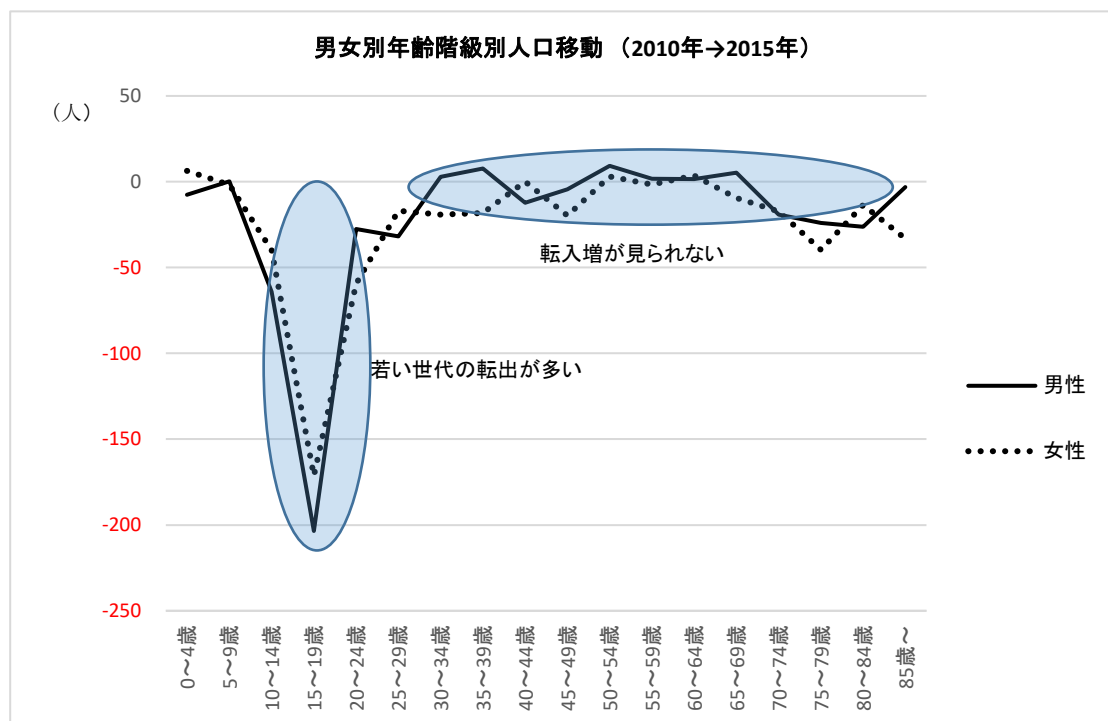
データ：新潟県福祉保健年報（新潟県）

※出生数は当該年の1月1日から同年12月31日までの集計による。

## 社会的要因では、若い世代の転出が多い。

2008年(平成20年)から2017年(平成29年)までの10年間で、転出者数は6,596人で転入者数は4,892人でした。この10年で社会的要因により1,704人減少しています。

次のグラフは、年齢を5歳ごとに区切り、2010年(平成22年)から2015年(平成27年)までの5年間の転入と転出の差引を集計したグラフです。20歳前後の若い世代の減少が目立ちます。



データ：国勢調査（総務省）

## (2) 将来人口の推計と分析

**2040年（令和22年）の人口は17,643人になると推計されている。**

国立社会保障・人口問題研究所が発表した『日本の地域別将来推計人口』（平成30年3月推計）によると、加茂市の人口はおよそ20年後の2040年（令和22年）には17,643人、およそ45年後の2065年（令和47年）には9,265人になると推計されています。

5年前の推計では、2040年（令和22年）の人口は18,816人と推計されていましたが、平成30年3月推計では17,643人となり、人口減少が進んでいます。

**これからも少子高齢化は進む。**

国立社会保障・人口問題研究所は、年少人口（0～14歳）、生産人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の推計も公表しています。この推計によれば2045年（令和27年）には、年少人口は2,897人（2015年）から1,259人（2045年）に減少し、人口に占める割合も1割を下回ります。老年人口は、9,190人（2015年）から7,412人（2045年）に減少しますが、全体に占める割合は増えて約半数を占めると推計され、少子高齢化はさらに進んでいく見通しです。

人口構造の推計（2015年と2045年との比較）

	2015年		2045年		増減	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
総人口(人)	27,852		15,703		-12,149	
年少人口 0～14歳	2,897	10.4%	1,259	8.0%	-1,638	-2.4%
生産人口 15～64歳	15,765	56.6%	7,032	44.8%	-8,733	-11.8%
老年人口 65歳以上	9,190	33.0%	7,412	47.2%	-1,778	14.2%

データ：国勢調査（総務省）、国立社会保障・人口問題研究所



### (3) 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

人口が減少していくことになれば、地域経済・地域社会への深刻な影響が懸念されます。加茂市だけでなく、新潟県の人口も237万人(2010年)から、179万人(2040年)に減少すると推計されています。新潟県の人口ビジョンによれば次のような影響が出ると分析されていて、加茂市へも同様の影響が予想されます。

地域経済への影響	個人消費、地域内消費の縮小、労働力人口の減少
地域生活への影響	利用者減による小売店や飲食店、医療機関の撤退 地域活動の担い手の減少による自治会・消防団などの活動への影響 伝統行事や祭りの衰退
公共交通機関への影響	利用者の減少による鉄道やバスの減便や廃止
医療・介護等への影響	高齢者の増加に伴い、医療や介護サービスを支える人材の不足 社会保障費の増加による現役世代の負担増大

## 2 人口の将来展望

### (1) 目指すべき将来の方向性

これまでの分析から、自然要因と社会要因に対して対策が必要です。自然要因では、死亡者数を減らすことは困難であるため、出生数を増やすことが重要です。一方、社会要因では、若い世代の転出が多いので、この世代の転出を減らすこと、進学等で転出しても加茂市に戻ってこられるようにしごとをつくること、移住する人を増やすことが重要です。

### (2) 人口の将来展望

国立社会保障・人口問題研究所の推計を基に、加茂市の人口の将来展望を2つのパターンで仮定した場合、次のグラフのようになります。

#### 《パターン1》

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」に準拠

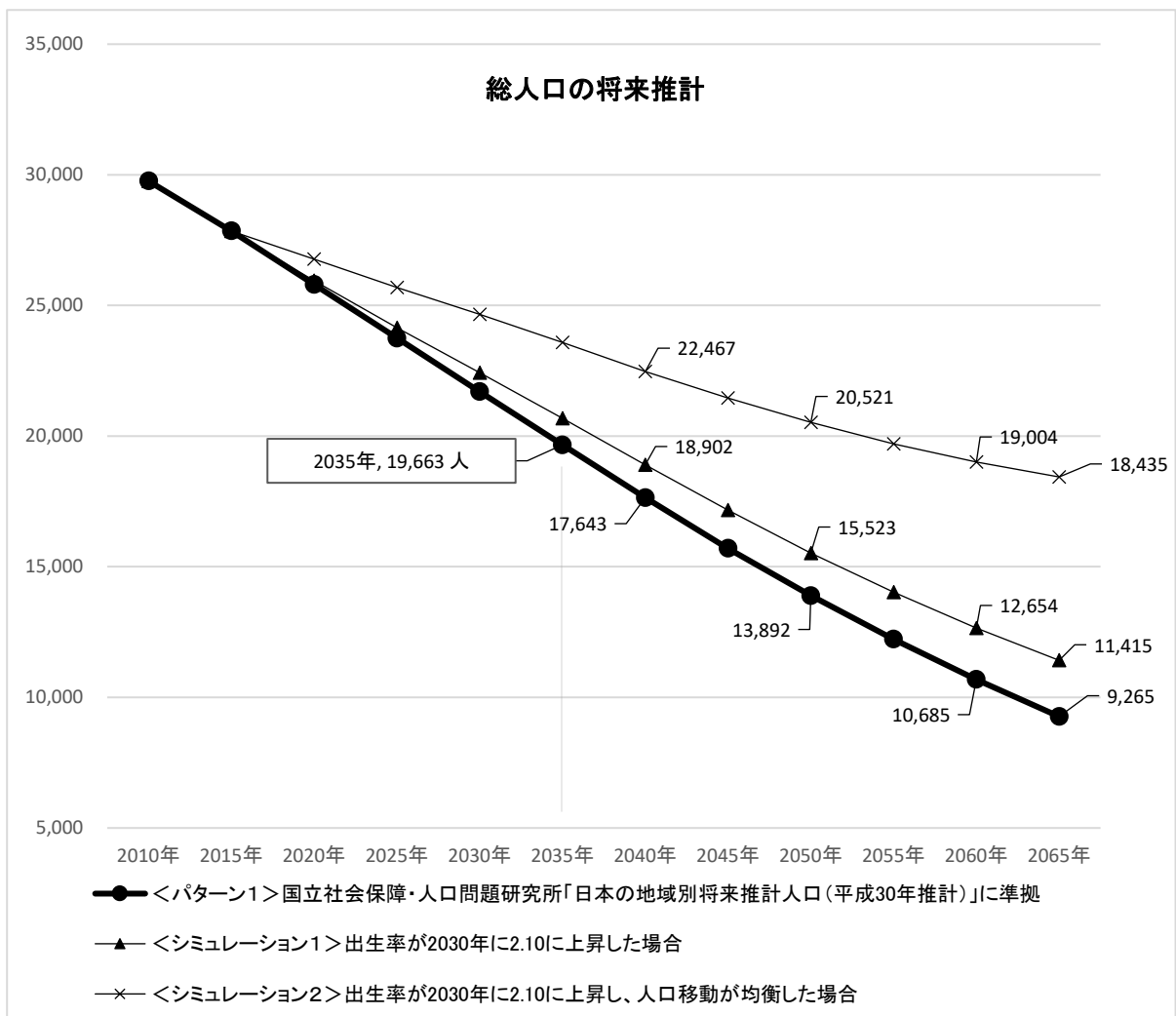
- ・出生や死亡に関する仮定は、最近の傾向を踏まえて設定
- ・移動に関する仮定は、最近の傾向が続くものとして設定

#### 《シミュレーション1》

パターン1(社人研推計準拠)において、合計特殊出生率が令和12(2030)年までに人口置換水準程度(2.1程度)まで上昇すると仮定したもの

#### 《シミュレーション2》

シミュレーション1に加え、直ちに移動(純移動率)が均衡すると仮定したもの



データ：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部が作成